三島茶碗って何？

室町時代末期に朝鮮陶工たちの作成による日用品の素朴な茶碗が輸入され日本の茶人たちの目にふれたのが始まりです。

この茶碗を手に取った茶人たちはその模様が三嶋暦の仮名の刻線に似ていたことから三島茶碗と名づけたのであろうと云う説が一般的です。

この茶碗の技法は、灰色の土の素地に細かいヘラやスタンプで型押しした上に白土で化粧し透明釉をかけて焼いた器で、韓国では粉青沙器と呼ばれています。

現代でも日本各地の陶芸家により三島茶碗が作られています。

体験コーナーと各種イベント

三嶋暦師の館では皆さまに、暦の歴史や文化に併せて多様な体験をして頂けるような企画をして、ご来館をお待ちしています。

三嶋暦の印刷体験（常時）をはじめ、三嶋暦を使った小田原提灯づくり・三島茶碗づくり・雛人形づくり・中秋の名月観賞・紙漉き・暦講座などです。

そのようなことから、ボランティア活動を含めて各種団体（三島市郷土資料館・三島市ふるさとガイドの会・月光天文台ほか）との協働活動などを行なっています。

いつでもできる三嶋暦の印刷体験

三島茶碗の色々

熱心な人たちで満席の講演会

十五夜の下、懐かしの歌を合唱

三嶋暦を貼った小田原提灯

大小の文字を刻んだ告知板を掲げ、晦日（当時の決算日）を間違えないように注意しました。

ご案内

壱

大社総門の手前を右折、塀に沿って進んで下さい。スタート！

弐

トイレ横を通りすぎると地面に案内標示があります。

参

案内標示に沿って歩いて下さい。自動車に注意!!

四

ゴール！ 三嶋暦の歴史をお楽しみ下さい。

三嶋大社総門より徒歩で約5分!!

交通案内

バス　三島駅南口①番乗場より東回り巡環バスで三嶋大社西下車（約5分）
徒歩散策　三島駅南口より東方へ約1.2km（約20分）
駐車場　三嶋大社駐車場（有料）。三嶋暦師の館には駐車場がありません。

開館時間

午前9時30分～午後4時30分
注：20人以上の団体の場合には予約が必要です。
「三嶋暦師の館」まで1週間前までにご連絡下さい。

休館日

毎週月曜日　（その日が国民の祝日の場合には、その翌日となります）
年末年始　12月27日から翌年の1月1日まで

入館料など

三嶋暦師の館の見学料は無料です。

所在地
お問合せ
三嶋暦師の館
〒411-0035 静岡県三島市大宮町2-5-17 TEL・FAX 055-976-3088
三嶋暦の館ホームページ https://mishimagoyomi.web.fc2.com/

発行元　三島市

このパンフレットは再生紙を使用しております。

R2.2

三嶋暦師の館

三嶋暦と親しもう

三嶋暦の発祥の地！

建物の由来

奈良時代に京都から移住してきたと云われる河合家（社家※注1の旧家）が三嶋大社の東側にあります。同家は古くは国の祭事を司る役にあり、庭の一角に天文台を建て屋内には作業場を設け、代々、三嶋暦を製造販売してきたと伝えられています。

現在の建物は安政の大地震（1854年）で母屋が倒壊した後に、韮山代官の江川太郎左衛門の肝いりで、十里木（裾野市）の関所の廃屋を使って建てられたもので、奥座敷はいちだん高い上段の間となっていて格式の高さが偲ばれます。

平成18(2006)年に「国の登録有形文化財」に指定されました。

※注1：社家　神事に直接関わる集団

建物の運用

三島市では、この歴史ある建物を河合家から寄贈されたのを機会に、せせらぎ事業の一環として平成17(2005)年に整備し、4月から暦の歴史・文化に親しめる場所として活用できるようにしました。

館内は三嶋暦の会のボランティア会員がご案内いたします。

展示品として、以下のものがあります。

三嶋暦・三嶋暦の版木・三嶋暦の関連資料

三島茶碗

三四呂人形※注2ほか

※注2：三四呂人形
この人形の名前は三島出身の人形作家、野口三四郎の名にちなんだもの

三四呂人形

使用済みの版木で作られた手焙り

三島茶碗

太陰太陽暦って何？

三嶋暦は**[太陰太陽暦]**（旧暦）の暦です。
現在、私たちが使っているカレンダーは**[太陽暦]**（新暦）です。
これは地球が太陽を1周する365日を1年と定めているのでカレンダーは季節の移り変わりと一致します。

暦の始まりは太陰暦でした。太陰暦では月の1朔望月である新月から満月を経由して新月に至るまでの、29.5日を1ヵ月の単位としていました。この0.5日は端数なので、1ヵ月の日数を29日（小の月）、30日（大の月）としました。

そのため、1年12ヵ月に6ヵ月ずつ、小の月と大の月とをいれても、1年＝354日にしかなりません。

季節は365日ごとに一巡するので、太陰暦では1年間で11日（365日−354日）ほどずれてしまいます。その結果、3年間では約1ヵ月の差が生じてしまいます。

暦ができた紀元前1000年頃の中国の黄河下流域では農事用にこの暦を使っていましたので、このままでは農作業の正確な日にちが分かりません。そこで最初は3年に1回、1年を13ヵ月の暦を作って季節を合わせました。（下の表を参照して下さい）

しかし、それだけでは未だ季節が良くつかめないので、二十四節気（冬至、春分、啓蟄～）を暦の中に入れて農作業に必要な季節の目印を作りました。

[太陰太陽暦]の呼称は、太陰（月）の動きを中心に作られてはいますが太陽に対する地球の動き、すなわち季節の移動を暦の中に加味させていることに由来しています。

暦　法	1年の日数	ひと月の日数	1年の月数	記載項目
太陰太陽暦	353日 354日 355日 383日 384日 385日	29日（小） 30日（大）	12ヵ月 13ヵ月	神様の方位 年月日の干支 日々の吉凶 曜日 24節気 など

三嶋暦師の館キャラクター
こよみ姫

三嶋暦とは？

三嶋暦は**仮名文字で印刷された暦**としては、日本で一番古いものだと云われています。

現存する最古の暦は、足利学校（栃木県足利市）にある周易古写本（重文）の表紙裏に使われている永享9（1437）年のものです。製造販売は三嶋大社と源頼朝との関係から、おおよそ鎌倉時代から明治16(1883)年までの期間だと思われます。

暦の作成方法は山桜の木を鑿で彫った版木に墨を塗り、馬棟で1枚ずつ摺っていました。

暦の形態には巻暦・綴り暦・略暦の3種類がありました。
巻暦は三嶋大社と江戸幕府への献上暦、他の2種類は民間に販売していました。

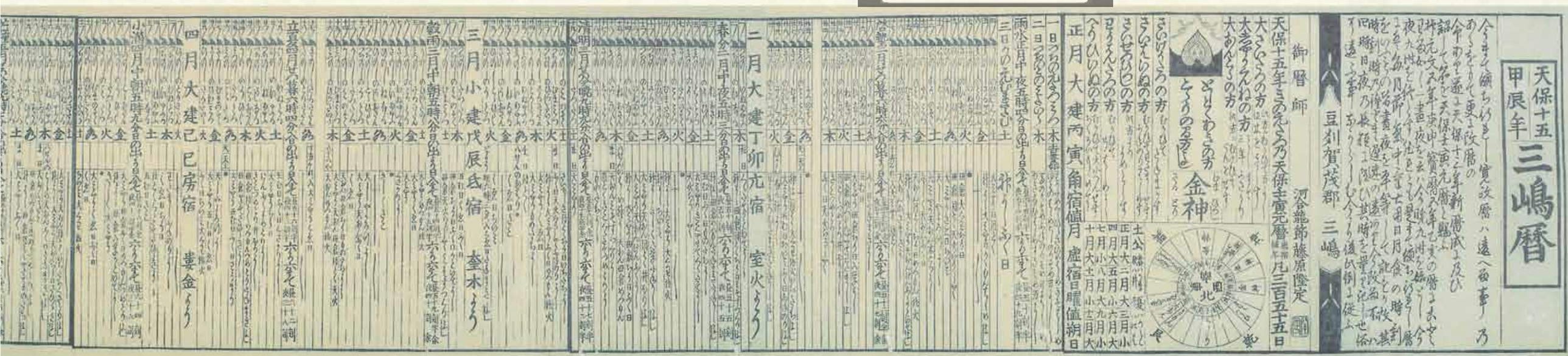
価格は江戸末期の慶応3（1867）年に綴り暦が116文（約2,320円）、略暦が14文（約280円）くらいとの記録があります。（この時代はインフレで前年の倍くらいに高騰）

販売地域は中世から江戸初期までが最普及期で、東日本は三嶋暦だったようです。織田信長や徳川家康も使っていたと思われます。

三嶋暦は文字の美しさ、線の繊細さで全国に知れわたり、旅人の土産やお歳暮として喜ばれていたことが、樋口本陣に残されている大名等の礼状からも推察することができます。

こうした三嶋暦を、復活させたいという思いから作られたのが**現代版・三嶋暦**です。平成21(2009)年、三島ブランドに選定されました。

下の三嶋暦を見ると、この年は「天保15年　きのえたつの年」
正月三日は「かのえうま さたん ど 神よし ふく日」と読めます。

三嶋暦の版木

三嶋暦の形態３種